コスモス

—ふれあい宇宙—

創刊号

コスモス
—ふれあい宇宙—

創刊号　目次

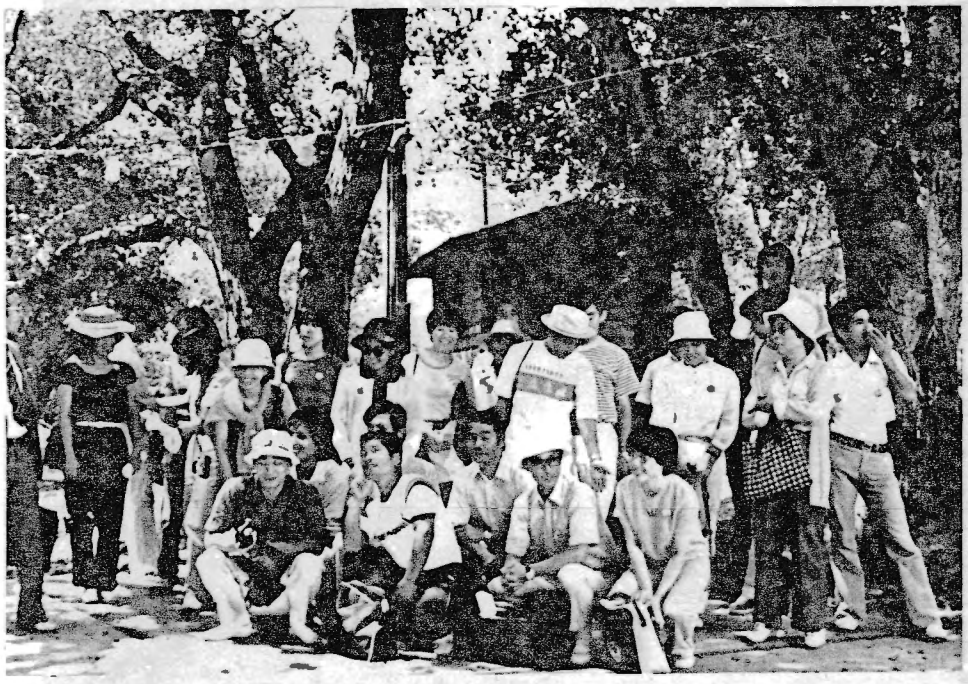
めぐりあい　近藤久美子 …2

<青森支部へのメッセージ>　久保田八郎会長
信念と友情を確立しよう …3

生まれ出ずる歓喜　山口 緑 …5

思いやりと感謝と微笑を　村上美知子 …7

青森支部月例研究会・編集後記 …10



昨夏の海外研修旅行：パロマーガーデンズにて

●表紙　M45＝プレアデス

出逢いはいつも計り知れない喜びをもたらしてくれます。小さな頃から運命的な匂のするこの言葉が大好きでした。人生はささやかな出逢いの積み重ねからなっています。

とくに、GAPに入会させて頂いてのこの一年は、素晴らしい出逢いの連続でした。春、初めての松山支部大会。暖かいフイーリングに探し物をやっと見付けた思いがしました。夏、初めての海外旅行。多くの方の御親切と雄大な自然に触れ、自分の存在の意味を知りました。秋、初めての総会。皆さんの前向きな生き方に教えられ、励まされました。冬、初めての青森支部月例会。そしてずっと憧れていた牛との生活。厳しい自然の中で暮らす人々の暖かさが、私を心地好く包んでくれました。何十年分かの出逢いを一度に味わったような貴重な体験でした。

以前の私は臆病な自尊心の塊で、エゴというレンガをそこらいっぱいに積み上げて、人目にばかり捕われて心要な物を無くしてしまっていたようです。出逢いの落し物はなかなか見付けにくいようです。それに、エゴとはいえ何十年もかけて築いたレンガの壁には愛着が残って捨て難いものです。

しかし、こんな私にもそばを

めぐりあい

近藤久美子

通り過ぎて行く人は暖かでした。ただ見守ってくださる方、「頑張れ！」と声をかけてくださる方、手を差し伸べてくださる方、中には、レンガを取り去って光を与えてくださる方までありました。誰一人として「もっと高く壁を築きなさい」とは言いませんでした。

すべての人、すべての物は私に生きることを教えてくださる〝宇宙の意識〟そのものです。いつも真実と喜びをもたらしてくれるめぐり逢いに感謝しなくてはなりません。どんな苦しみも喜びに比べれば小さなものです。また、よく見れば喜びの芽をどれもが持っているのです。レンガをひとつ取り去ればそれ以上の太陽の光が差し込んできます。心をオープンにして素直にめぐり逢いの光を受け入れて喜びの芽を大きく育ててゆきたいものです。

「他人からしてもらいたいと思うことを他人にもしなさい」という言葉があります。私にいったいどれだけのことができるのかまだよくわかりませんが、創造主からのプレゼントである素晴らしいめぐり逢いに感謝しつつ、その喜びをより多くの人に分ち与えることのできる思いやりのある人間になりたいと思います。

〈青森支部へのメッセージ〉

信念と友情を確立しよう

日本GAP会長　久保田八郎

久保田八郎会長

青森支部の皆様方からは平素多大なご支援にあずかりまして厚く御礼を申し上げます。おかげさまで日本GAPもなんとか困難を乗り切りながら今日に至りました。宇宙への道を突っ走るにはまだまだ多大の障壁を乗り越えねばならないでしょうが、これには絶大な信念と同志間の友情による結束が必要でありますから、今後もいっそうの一体化を目指して邁進したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

近来、日本GAP内部には種々のデマが流れ、また他のグループからの妨害もあったりして、かなり混乱しているように聞いております。これはある意味ではフィルターの役目をすることになり、事実無根の噂を容易に信じてGAPを去る人もあるでしょうが、その場合は信念の強烈な人、鋭敏な感性をもつ人などが残って、そうでない人は去って行くことになりますので、むしろ良い傾向であるといえま

す。

私たちのGAP活動は個人のもつ偉大な潜在能力を開発するとともに、別な惑星の高度に進化した人々のスペースプログラムに協力しようという目的もありますから、哲学としての観測のいずれか一方だけに堕したのでは片手落ちになります。この両方に関心をもつ必要があるのです。

また私たちはあくまでもジョージ・アダムスキーのしいた路線を歩むことが大切でして、聖書とかヨガとか、なんとか冥想とか、インドの哲人とか、そんなものに熱中するのはあまりアダムスキーを離れるようになってはいけません。またこれらとアダムスキーを天秤にかけてもいけません。人間は二人の主人に仕えることはできませんので、あれこれと雑多なことをやってみても、所詮得るところはなく、真の悟りに到達することは不可能です。

ただ一つのものを目標にしてまっしぐらに前進することが最後の勝利を得る道です。私などは少年の頃から芸術家を志望して、音楽、美術へ絵画し、写真、文学、語学等を猛烈に勉強しましたが、結局どれも成功しませんでした。あまりに目標が多すぎたからです。しかし現在のGAP活動にたいして過去に私が勉強したことはすべて役立っています。要するに私が今日の活動を行うのに必要な知識や技術などを身につけるために、過去にがむしゃらに多くの事柄を学んだのは一つのカルマだったといえるでしょう。

しかし宇宙の法則は不変ですから、それを万人に理解できるように説いたアダムスキーの宇宙哲学は、やはり私たちの目覚めにとって唯一の歩むべき道であり、目標であると思いますので、これを離れないように心がけるとよいでしょう。

青森支部の月例会には東京月例会ほどの多数の人は集まらないかもしれませんが、しかし本当のカルマをもつ真剣な人々の集合ならば、人数などは問題ではありません。数百名の弥次馬の集まりよりも七、八名の本当にやる気のある人の真剣な会合のほうがはるかに価値があります。それは必ずスペースブラザーズの注目と援助の的となるでしょう。

青森支部には幸い中根豊氏というすぐれたリーダーがいらっしゃいますから、これを中心に皆さん方がかたちりと結束して前進されるならば、いつかきっと良き報いがあるものと確心します。

東京よりはるかな北国の白銀の世界で活躍される皆様方のご健康を祈りつつメッセージを終わらせていただきます。

（一九六六年二月十六日）

生まれ出ずる歓喜

山口 緑

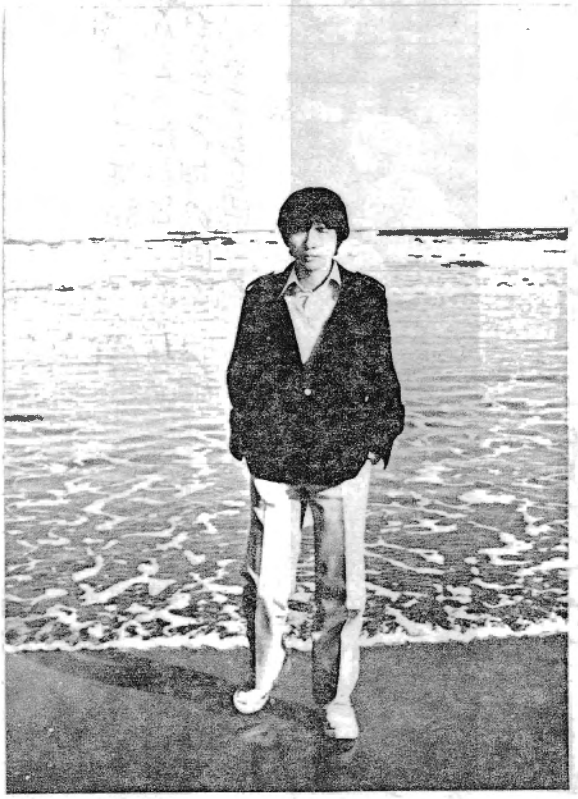
私がまだ小学校にも行かないほど幼い頃、父と母のあとにくっついてよく野良仕事についていったのを記憶している。田畑に行くと土や草ばっかりで、あとは青い空ばかりでとても退屈しっぱなしだった。よく母が大きくなった私を見て、「おまえはよくビッキへ蛙」をつかまえてポケットに入れて遊んでいたよ」と話してくれる。自然とは何と物静かで、退屈なのだろうかと思っていた。

あたり一面大自然に恵まれた環境に生まれ育った私は、自然の美しさや素晴らしさに気づくことなく、むしろこんなド田舎は古臭い因襲ばかりで、人間の心を閉鎖的にしてしまいそうで、何とか脱田舎を計りたかった。父や母の肉体労働を見ていつもこんなにきびしく生きなきゃならないのだろう。何のために親たちは生きているのだろう。一日もの休息もなく、連日働きづくめでその割にはやっとの暮らしで、親たちはいったい何をめあてに生きているのだろうか」。

東京での生活がまる一年になる。心のスクリーンに浮かぶのは郷里の豊かな大自然の輝ける美であり、大自然の吐き出す清浄な大気、心地よい自然のかもし出す美しいメロディー。真夏、数百匹もの蝉が超オーケストラを組んで森を舞台に壮大なシンホニーを響かせる。花園を自分の御殿のごとく優美に舞う色とりどりの蝶、仕しく働く蜜蜂たち。冬、純白のまばゆいばかりの雪の結晶が陽光にダイヤのように燦然と輝き、私の眼を閉眠させる。秋の夜、天空には無数の星くずが無言にまばたき、地上からは緑色のひびきある大合唱を聴かしてくれる虫の群。そうした感動はそのまま創造主への感動であり、創造主の姿を見るようである。心を静かにして静かにして自然の中に溶け込ませれば、神のささやき、英知が泉水のように流れ押し寄せてき

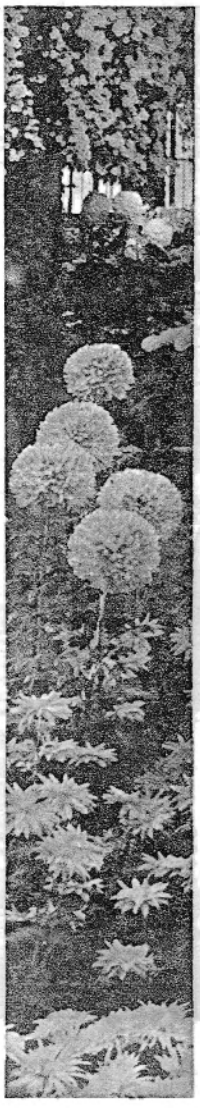
て、心はとっても感動しすぎてしまい、吸収しきれなくなってしまう。ちょっとでも心が、創造主(父)のいうことをきこうと心掛けると、父は喜んで語りかけてくれる。幼い頃感じた自然への退屈さは、私の幼い心のひとりよがりであった。自然のいたるところに父がいて、さまざまの表現形態をとって人間がどう思おうと、どう行為しようとお構いなしに大宇宙の秩序あるメロディーを奏で続け、それは決して止むことはない。子が父に対してつっ張って、わがままを通しても、決して幸せにはなれない。心が意識のもとへ帰って、素直に謙虚にさえなれば無限なる幸福がおとずれるであろうことを、最近になってほんの少しながら気づけるようになったことは、何よりの喜びである。

私の仕事は家庭教師である。学生の頃からずいぶん多くの子供たちと共に勉強してきた。私は決してすぐれた教師ではないが、いろんな子供をみてこう感じるようになった。私の教えようとする物事に対して、素直に謙虚に取り組もうとする子供は急速に成績を上げてくるが、私のことに対して不信を抱いたり、反抗的だったりする場合はマイナスの結果をもたらしている。勿論これは私の指導上の問題もかなり大きなウェイトを占めることは事実である。いくら私が正しい考え方、導き方を示しても、それに疑惑を持ったり、それを忠実に実行しようと意図しない子はいつまでたっても暗黒の森をさまよっている。私の心も宇宙の意識という教師に対してちょうどそんな状態である。いつも私たちの先生はやさしく、愛情をこめて導いてくれているのに、わがままな心はいつも先生を信用しないで、ミスばっかりをやってしまう。私たち人間の生活は、意識の教えをきく技術を習得するためにまずはある、と言えるかもしれない。ちょうどわれわれが英会話をマスターするために七



山口緑氏

アリングの練習をするようなものだろう。このヒアリングの技術が身につけばつくほど英語を理解し嬉しくなるように、神の声をはっきり聞き取れるようになれば無限の歓喜が全身にひびきわたる。意識による教授はとてもデリケートで、やさしいもので、心がしっかりきき耳を立てないと聞き取れないものであっても、でもその意識は常に、どんなところにも電波を送信し続けているだろう。一粒の米から送られてくる印象も無数のものがある。米作りを幼い頃から見て育った私はその結実までの過程の一瞬一瞬がいかに微妙なものであり神聖なるものであるかを知れてとても幸福に思える。だから今なおたった一粒の米をもムダにできない。その一粒をも神の具現であり、それは無数の原子分子が緻密に組み合わさって形成され、私たちの体内に入って、それがどこにいってどうなるかも心は知らないが、その原子分子は私と共に生きることになるのだ。すべては結びつき合って、ほんとうにひとつで、それがたったひとつの神の国でおこなわれていることを思うと、



感謝と感覚で涙が出てくるが、その涙も原子分子でできていると思うと、驚きでその涙も止まってしまう。

思いやりと感謝と微笑を

村上 美知子

文章を書くのが苦手な私ですが、今自分が感じていることを素直に書いてみようと思います。最近、私は愛についていろいろ悩み考えました。私の周りにそういう事で悩んでいる人が多いせいで、影響を受けたのかもしれませんが……。〝もしも、あなたの愛している人が何かの事情であなたと遠く離れ離れに暮さなければならなくなったとすると、あなたの愛は距離や時間によって変化しますか？〟という質問に、私は、二人がお互い信頼し合っていれば距離や時間へ地球的観念ですが〉というものがあっても愛は変わらないと思っていました。でもそれは、

すべてが宇宙的な愛ではないような気がしてきたのです。〝宇宙的な愛〟は相手を束縛したり、強制したりするものではないように思います。私達はどうしても最後的には、結婚をするための相手を見つけようとして唯一人の人をつかんでいようとします。確かに、魅かれる気持ちというのは否定できません。むしろ自然にわき起こる気持ちを素直に感じていいと思います。ただ気をつけたいと思うことは、知らず知らずのうちに自分の気持ちを相手に強要してはいないかということです。つまり私達が愛と称しているものには、時として無意識のうちにエゴを含んでいる場合もあるように思うのです。

お互いが常に成長し変化してゆく過程にあるのですから、自分の気持ちだけで相手を束縛するのではなく、お互いを尊重し認め合い、もっと開放的になる必要があるのではないでしょうか。これは男女の間だけでなく、自分の周りにいるすべての人々に対しても言えることだと思います。私個人は男女の意識があまりありません。いつも思うのです。いろんな人とめぐり逢って、その人に存在する宇宙の意識と私という肉体に存在する宇宙の意識、二の意識と意識で話せたらなあ……と。

以前私は、何日間かまるっきり一人の時を過ごしたことがあります。どちらかというと一人の時間を持ちたい人間でしたが、二十四時間の何倍もの時間をほとんど口を開くこともなく過ごすのですから、自分という枠の中でしか考えを消去できず、そのため相当落ち込んで自己嫌悪の塊になってしまいました。

やはり、人は様々な人々と接して生きてゆかなければならないことを強く感じました。いろんな人と接すると摩擦を生ずる時が必ずあると思いますが、その摩擦があるからこそ、私達は少しずつ進歩することができるのではないかと思うのです。その摩擦もいろいろとあるでしょう。自分のエゴに気づいたり、また自分以外の人から受けるものなど……。

村上美知子さん(左)と近藤久美子さん

私の場合だけなのかもしれませんが、私は素晴らしい宇宙の法則を知っているせいか、何か人よりも自分を優位に置くような考え方が無意識的に存在してしまいます。つくづく自分の思い上がりが嫌になりますが、その経験を宇宙的な人間になるための踏み台とし、あえて醜いエゴを直視して少しずつ改めていくようにしなければと思います。

悩んで息苦しくなったときは、身近にある自然に触れるということがおかしくさえ感じます。常に宇宙と一体であるとフィーリングが自然にわき起ってくるように、思いやりと感謝の気持ち、そして微笑を持って人と接するように心がけてこれからも頑張ってゆこうと思います。

最後にステックリング夫人の言葉を印して終ります。

"憎しみの心があるところはいつでも優しさでそれをうずめましょう。非難には寛容で、そして混乱には理解をもって、広げた手と心を伸しましょう。これらの考えを心に抱いていたら、私たちすべてが支えている重荷を軽くしてくれるはずです。"

青森支部月例研究会

- 毎月第3日曜日　午後1時～5時
- 青森市民文化センター　教養室
- 会費　￥300
- プログラム　①久保田会長の東京月例会における「生命の科学」解説講義録音テープ公開　②意見発表　③テレパシー練習　④座談会

今年3月の月例会（3月14日、青森市民文化センター教養室）。左から高橋、小杉、村上、鈴木、畑野、田村、吉崎、中根の各氏。

――編集後記――

●ようやくここに創刊号を発行できますことを大変嬉しく思います。原稿をお寄せ頂いた久保田会長と山口、近藤、村上の各氏に厚くお礼申し上げます。

●私たちは他人を理解することにおいて成長するのですから、他の人とのふれあいには大変大きな意義があるように思います。この小冊子が多くの人々のふれあいの場となり、お互いの成長にお役に立てれば幸いに思います。（中根）

コスモス　創刊号
―ふれあい宇宙―
編集発行人　中根　豊
発行所　〒039-26　青森県上北郡東北町字夫雑原541
一九八二年四月一日発行